

# 品川支部

令和4年7月1日発行  
 〒141-0022  
 品川区東五反田1-8-5  
 TEL 3442-7075  
 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

## 7月

## 子どもおちばがえいの夏 制約三年目のチャレンジ

例年この時期、おちばでのこどもおちば帰りを楽しみに受け入れの準備や、鼓笛の練習の音で活気あふれる風景が見られていましたが、コロナでの制約も三年目と言う事になりました。

しかしながら今年は、少しでも楽しんでいただくことと昨年から大きくバージョンアップしてお迎えする体制を整えています。

こどもひのきしんセンターを初めピッキー広場でラリーや水遊びピッキーとリボンの宇宙探検では色々な仕掛けの巨大迷路やほんわかシアター、みちの子作品展、みちの子サマーステージおやさと謎解きin参考館や鼓笛オンパレードが熱中症や感染防止の工夫がされ、沢山の皆さんをお待ちしています。



### ☆支部行事のお知らせ

・支部幹事会

七月九日(土)午後六時〜  
 櫻京分教会にて

・教区ひのきしん

今月は日本橋組です  
 無理の無いレベルでお努め願います

・神名流し

一日 大井町駅前

・在宅センターひのきしん

二十九日

・支部例会

七月二十一日は豊英分教会での会場で  
 日にちをお間違えの無いようお願い致します。  
 ※二頁に詳細掲載

### ☆教務支庁からのお知らせ

・会計部

第百二十七回地方委員会が六月十九日  
 に行われました。  
 地方委員会は、決算の承認の委員会と予算  
 承認の委員会が二回おこなわれます。  
 コロナ禍による大幅な減収、行事の制約等  
 で難しい時期ですが無事承認となりました

・東京元氣プロジェクト

皆さんに協力いただいております  
 ペットボトルのキャップは五月末で教務  
 支庁で四〇キログラム(二万個)が集  
 まり途上国の子どもにワクチン二十  
 人分が届けられる事になりました  
 御礼申し上げますとともに、ご留意点  
 として、残留液があるとカビが出る  
 そうですので洗浄の上、これからも  
 よろしくお願い致します

・少年会

夏休みこどもひのきしんセンター  
 を七月二十六日から八月二十八日  
 の間、南門の西側案内状近くに開設  
 致します。  
 家族での夏のおちば帰りで楽しんで  
 下さい  
 鼓笛では期間中、特別企画として  
 「鼓笛お供え演奏」と「鼓笛オンパレ  
 ード」が土曜日日曜日に開催されます

・品川支部から

コロナ禍の影響もやや治まりつ  
 つありますので、十月には三年ぶ  
 りの総会を催したいと思っていま  
 す。  
 又、様子を見ながら、楽しい企  
 画を実施していきたいと思いま  
 すので宜しくお願い致します。

拠点教会	6日号	13日号	20日号	27日号
日本橋	直送	手配り	手配り	手配り
本 荏	手配り	手配り	手配り	手配り
南 泰	手配り	手配り	手配り	直送
三ツ木	手配り	手配り	手配り	手配り
水豊田	手配り	手配り	手配り	手配り

時報手配り七月予定

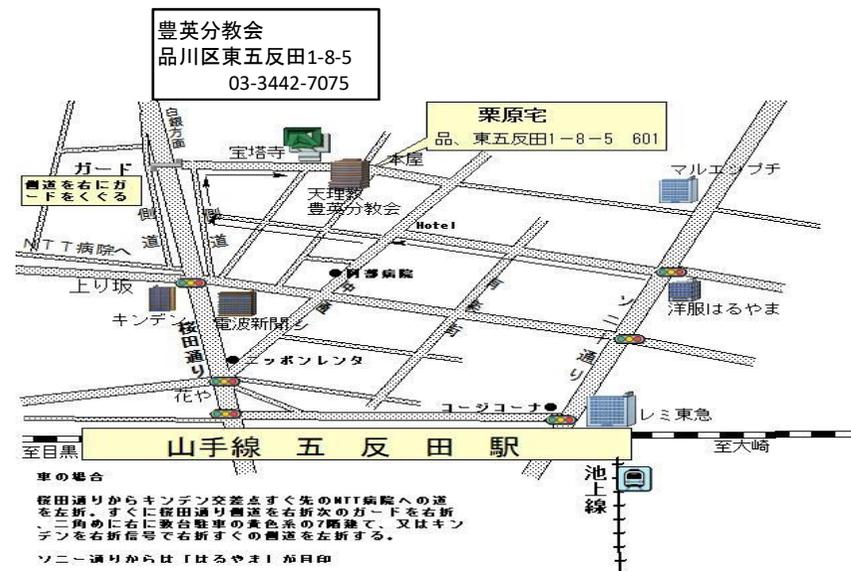
暑さが厳しくなります。  
 手配りの方は大変、ご苦勞様です  
 が宜しくお願い致します。  
 ※手配りの方、募集しております。

# 品川支部例会

## 令和四年7月21日 (木) 11時開始

### 場所 豊英分教会 座りづとめ よろづよ八首 七下目 東京教区、支部連絡事項 当該栗原教会長挨拶 \*各教会の方のほかどなたでも (白足袋ハッピー着用)

尚、コロナ状況で変更も有ります



### 家族が新型コロナに

#### 水豊田分教会長



先日のニュースで新型コロナに感染された方が世界総人口七十六億人の内、五億人を越えたと報道されていきました。国内の昨日(六月十日)の新規感染者が約一五六〇〇人。都内でも一六〇〇人と減少傾向にあり第七波の感染状況も収束にいくと実感しています。

とは言うものの、私の子供が通っている小学校から毎日メールで今日は何人、今日は何人と連絡が来ているので自分たちも気をつけなくては！という気持ちでいました。

外ではマスクを必ず付けるし、外での不特定多数の飲食はしませんし、家に帰れば玄関で消毒・その後手洗いもしますし、ワクチンは三回接種しましたし……。どこか油断というか自分、私達家族は大丈夫だろうという気持ちでいました。

ところが三月末に妻が「喉がちょっと痛い」と言い出しました。その日から部屋を分けて翌日PCR検査を受診。その次の日は信者さんの講社祭でしたが、帰りの電車で妻からコロナ陽性の連絡が入り、啞然とした気持ちで帰宅いたしました。その後妻は十日間の隔離生活。私達家族や住込みの方も濃厚接触者となり一週間の外出禁止となりました。幸い妻以外は全員陰性でしたが、隔離生活の家族や住込みの方を含め朝昼晩7人分のご飯を一週間作る生活が始まりました。当初は教会の一大事！と思いつつ頑張りましたが、外にも出れず、毎食7人分のご飯を朝昼晩作り、別室の妻にご飯を運び、洗い物をして、皆の洗濯物をして、またご飯を作つて、と、日々の家事をしながら三日目には何故こんな事に・・・と思ひ、過ごしておりました。教会長として人前では感染症に対して話をする機会はありませんでしたが、改めて我が身・我が家族に表れた身上事情をどう受け止めるか思案してみました。

流行病としてはコレラを台としてのおふでさきがあります。「せかいにハこれらとゆうていけるけれど、月日さんねんしらす事なり」14-22 この二年半何度となく聞いたおふでさきですが、このコレラをコロナに置き換えることが身のこと・我が家こととして感ずることが出来ます。では『親神様の残念ってなんだろう?』これは私達人間が世界の本来、又親神様の真意を知らない、心に治まっていらないから残念なのだと思います。おふでさきには「このよふハ一れつハみな月日なり、にんけんハみな月日かしもの」6-120 「せかいぢうこのしんぢつをしりたなら、ごふきごふよくだすものわない」6-121 「ころさいしんぢつよりもわかりたら、なにもこわみもあふなきもない」6-122 と教えて下さっています。自分自身にこのおふでさきを問いかけた時に、

神の懐住まいに對して日々感謝していただろうか、借り物の身体をいつも感謝していただろうか、生かされている喜びに感謝していただろうか等々。反省ばかりであります。先ほどのおふでさきの続きに「月日にわにんけんはじめかけたのわ、よふきゆさんがみたいゆへから」14-25 とありました。陽氣ぐらしは一人では決して出来ません。夫婦や親子といった家族、近所の人、友人知人。私たちの生活は今言った人たちに囲まれて成立している。その中で助け合つて暮らす姿こそが陽氣ぐらしだと思います。今回の家族へのコロナ感染を通して改めて親神様の思いを再点検・再確認出来ることに感謝しています。そしてつくづく大難は小難にお連れ通り頂いたと思つています。

石田寛之